

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 ジュニアアスリート発掘・育成事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 競技スポーツ課 ジュニアアスリート発掘・育成係

電話番号：058-297-7003

E-mail: c11173@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 16,864 千円 (前年度予算額：16,916 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	16,916	0	0	0	0	0	0	0	16,916
要求額	16,864	0	0	0	0	0	0	0	16,864
決定額	16,864	0	0	0	0	0	0	0	16,864

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・本県の子ども達は、地域・学校で実施されている競技種目を行うことが多く、自分の適性に合った競技種目を選択できないスポーツ環境にある。
- ・少子化の影響から団体種目は活動維持が難しく、存続のために小学校低学年からクラブ・少年団に加入し、単一スポーツしか経験ができない環境にある。
- ・本事業は、運動能力が高く優れた素質を持つ県内の小学生を発掘し、中学校・高校進学以降に適性のある競技種目でトップアスリートを目指せるよう、関係競技団体等と連携を図りながら、ジュニアの発達段階に応じた県独自の育成プログラムを実施することにより、将来、オリンピックをはじめとする国際大会で活躍できるトップアスリートを育成することを目的とする。

(2) 事業内容

- ・小学4、6年生を対象に運動能力測定(選考会)を実施し、運動能力の高い選手を発掘する。

- ・各競技団体の優秀な指導者のもとで、小学5・6年生は2年間で15競技種目程度を、中学1～3年生は3年間で11競技種目程度を体験する競技プログラム、飛騨御嶽高地トレーニングエリアを有効活用する宿泊研修やトップアスリートに必要な知識・知的能力を育成する共通プログラムなど、県独自の育成プログラムを年間30日間程度実施する。
- ・育成プログラム修了時に、中学校・高校進学以降にトップアスリートを目指せる可能性のある最適な競技種目を選択できるように、選手、保護者に助言する。

(3) 県負担・補助率の考え方

公益性のある本事業は、県でしか実施・負担することができない。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	864	講師謝金、委員謝金等
旅費（費用弁償）	91	講師旅費等
旅費（業務旅費）	610	事務局旅費等
消耗品費	266	事務用品等
会議費	180	飲料水等
印刷製本費	722	啓発ポスター、募集チラシ
役務費	360	郵便代、電話代
保険料	127	スポーツ安全保険
業務委託料	9,924	競技プログラム委託、検証等委託、選考会委託
使用料	3,720	会場使用料
合計	16,864	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各計画での位置づけ

- ・岐阜県清流の国スポーツ推進条例：青少年スポーツの推進と青少年の健全な育成に努めるとしている。
- ・清流の国ぎふスポーツ推進計画：地域に支えられ、世界や全国で活躍できるトップアスリートの育成(ジュニア世代の発掘・育成)を目標とする。

(2) 国・他県の状況

- ・現在 37 都道府県・地域がタレント発掘・育成事業を実施
- ・スポーツ庁・(独)日本スポーツ振興センター(JSC)もタレント発掘・育成プログラム(ジャパンライジングスタープロジェクト・アスリート育成パスウェイ)を実施

(3) 後年度の財政負担

- ・継続実施により成果がでるものであり、本事業の継続が必要

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・子ども達のスポーツ環境の整備は、県が主体的に実施することが妥当

事業評価調査書

新規要求事業
 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

運動能力が優れた人材を県内のジュニア世代から発掘し、県独自の「育成プログラム」を計画的・継続的に実施することにより、それぞれの適性に合った競技を選択できるように支援することで、将来オリンピックをはじめとする国際大会で活躍できるアスリート輩出を目指す。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
オリンピック出場選手	0 (H26)	0 (H30)	0 (R1)	0 (R2)	5 (R3)	0%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

清流ジュニア（中学1年生26人・2年生24人・3年生27人）清流キッズ（小学5年生27人・6年生26人）が、関係競技団体・県内5大学・（公財）岐阜県スポーツ協会と連携し実施する育成プログラムに参加している。

(前年度の成果)

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

第4期生（中学3年生）、第5期生（小学6年生・中学2年生）及び第6期生（小学5年生・中学1年生）は、育成プログラムに取り組み、自分の適性（得意な能力）を理解し、運動能力を育成している。

第7期生（本年度に参加するジュニア選手）を選考測定会・選考委員会を開催して発掘し、キッズ第5期生とジュニア第4期生（前年度に修了する小学6年生と中学3年生）には、三者面談等を通じて選択を助言する。

高校へ進学した第3期生の約35%の生徒が、適性に合っているととして勧めた競技を選択して取り組んでいる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い</p>	
(評価)	<p>少子化・指導者不足問題により、県内の子ども達を取り巻くスポーツ環境は良い方向に進んでいない。</p> <p>子ども達に世界への可能性を開くためにも、子ども達が高いレベルでスポーツに挑戦する機会を提供し、子ども達の可能性を最大限に発揮できるようにすることが必要である。</p>
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
(評価)	<p>事業目標、その達成度を示す指標・実績からして、長い期間を経て有効性が評価されるため、まだ顕著な成果は得られていない。</p>
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある</p>	
(評価)	<p>事業開始6年目になり、有識者で組織する評価委員会を開催し、事業の在り方を発掘・育成・評価の3つの観点から見直し改善の方向を確かにした。</p> <p>県独自の育成プログラムを実施し、自分の適性に応じた最適な競技種目を選択できることを目指して事業を進めている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 プログラム実施学年と、種目数の削減について考える必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 本事業は、競技力向上（選手の育成・強化）につなげるため、継続実施することが大切である。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	—
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	—